

自分を信じる力が未来を変える

半世紀以上に渡り第一線で活躍し続ける世界的ロックバンドのザ・ローリングストーンズが通算36枚目のアルバムを制作し、世界を賑わせています。発表記者会見では、デビューの時の輝きが色褪せないオーラを放ち、世代を超えて多くのファンを魅了していました。

メンバーの一人は、新曲への意気込みについて次のように答えます。「いつだって、まだこの先に何かあるはずだと思うから、こうしてやり続ける。ギターだってもっとうまく弾きたいから音楽を作り続けるんだ。」キャリアのピークをとっくに越えた82歳のロックンローラーは、過去を振り返ることなく、未だに演奏への可能性を求めていました。

目的のない技術は、円熟に至らないと言われるように、一步でも、1ミリでも前に進みたいと思わせる意欲は、自分を信じるからこそ溢れてくるものなのかもしれません。今こうして伝説のロックバンドと言われるまでには、メンバーの脱退、仲間との対立や高齢化による逝去など数々の困難を乗り越えてきました。しかし、世間から低迷期と噂されようとも、あらゆる音楽ジャンルに挑戦して、今でも圧倒的な存在感で多くのファンから愛され続けるのは、自分の持っていないものがまだあるはずだと、未来を変える自分の力を信じているからだと思うのです。

私は、このロックの神様の一言をきっかけに、もっと自分を追い込むことで可能性が見えてくるかもしれないと奮起し、年齢を理由に遠ざけていたジョギングを再開させました。走った二日後に感じる全身の痛みは、以前に比べ心地良く「まだこれから！」と自身を鼓舞しました。

令和8年5月31日、一年生の時から応援し続けた柔道部の生徒が最後の大会となり、聖地でもある講道館へ足を運びました。まるで柔道着が闘っているように見えた二年前に比べると身体も心も逞しくなり、練習を積み重ねてきた努力を感じました。会場では、観客席からの新入部員による熱い視線もあり、期待に応えたい思いが部員の緊張感を極限まで高めていました。

いよいよ試合が始まります。「はじめ」の合図の瞬間、畳の上からは、部員の闘志が私の心に凄まじい勢いで突き刺さり、瞳の奥からメラメラと燃えるような炎も見えました。手に汗握る技の掛け合いが続きましたが、相手の技を上回り、見事勝利した者もいれば、善戦むなしく力負けしての惨敗となった者もいました。私は、呆然とする選手の顔や涙の溜まる瞳を見て、どう声をかけようかなど迷うことなく、「たった1ミリでも前に進むために日々の練習があるんだ。」と伝えました。この大会を終え、一区切りを付ける三年生へは、一人ずつ肩を叩き「努力の証は、結果ではないよ、本当によく頑張ったな！」と、練習を積み重ねてきた日々を称え、会場を後にしました。倒されても、投げられても、強くなりたい、うまくなりたいと、自分の可能性を信じ、挑み続けた選手の努力は、学びの匂いとなり、柔道部の礎として後輩たちに受け継がれていくことでしょう。自分を信じ、歯を食いしばってでも前を向く力、負けても負けても、立ち上がっていく力、これら**自分を信じる力が柔道部の未来を変えていく**と期待しています。

がんばれ！柔道部！ 令和8年6月

